

(有)フロンティアはら (石川県羽咋市)

実証面積：25ha

実証課題名 大麦の生産拡大と低コスト化を目指したデータ駆動型水田収益向上モデルの実証

構成員 石川県農林総合研究センター、(有)フロンティアはら、クボタアグリサービス(株)金沢事務所、JA全農石川県本部、JAはくい、(公財)いしかわ農業総合支援機構、石川県中能登農林総合事務所



背景・課題

- 人口減少や食の多様化などによって、米の需要は減少傾向にあり、大麦等の水田転換作物の作付拡大は農業経営体・地域にとって喫緊の課題
- 大規模経営体を中心に経営面積の増加が続いており、労働力等の観点から水田転換作物の作付拡大には、スマート農業技術等の革新的技術が必要



実証地域の大麦生産ほ場

本実証プロジェクトにける想い

本実証では、大麦の作付面積拡大および低コスト化に向けて、

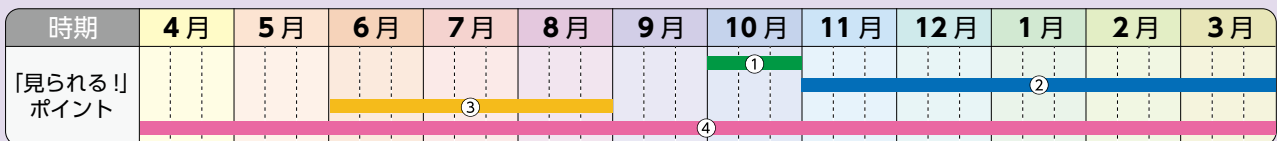
- ・無人トラクター等の活用によって播種能力を倍増する「スマート播種体系」
- ・センシングデータや収量データに基づいて、追肥や土づくりを行う「データ駆動型スマート施肥システム」などの実証を行います。実証を通じて、データ駆動型の水田収益向上モデルを構築し、スマート農業技術の社会実装を推進します。

目標

- 無人トラクター等の導入により、大麦の播種能力を倍増
- 可変施肥システム等の活用により、化学肥料使用量10%低減
- 大麦の収量10%向上
- 上記により生産者利益10%向上

実証する技術体系の概要

要素技術 ①無人トラクター（播種）、②衛星センシング+可変施肥ハイクリブーム、③収量コンバイン+可変施肥対応ブロードキャスト、④営農管理システム



①無人トラクター（播種）	②衛星センシング+可変施肥ハイクリブーム	③収量コンバイン+可変施肥対応ブロードキャスト	④営農管理システム
			

問い合わせ先

- ▶ **実証代表** 石川県農林総合研究センター (電話：076-257-6911、メール：nk-kika@pref.Ishikawa.lg.jp)
- ▶ **視察等の受入について** (公財) いしかわ農業総合支援機構 (電話：076-225-7621、メール：info@inz.or.jp)